

【MedTec Forum】平成18年度受験生のための筑波大学説明会から

東野英利子 (人間総合科学研究科 / 臨床医学系 / 情報・広報委員長)

平成18年7月27日、医療科学類の大学説明会が開催された。平成19年度から看護・医療科学類が看護学類と医療科学類に分離するため、医療科学類として、単独で説明会を開催した。梅雨明け間近ではあったが週間天気予報では60%の降水確率であったため心配したが、どうやらお天気には恵まれた。熱中症を心配するほど暑くもなく、去年に引き続きラッキーであった。

今年度の参加希望者は約270名、ちょうど臨床講堂Aに入る人数ということで、昨年のような教室繰りに苦労することはなかった。ほぼ予定通りの参加者数であった。父兄の同伴は三分の一から四分の一くらいであったろうか、多少の不満もあったようであるが、父兄は臨床講堂Bでスクリーンで見ていただくことにした。受付を臨床医学系棟との渡り廊下の下の屋外で行なってもらったので、臨床講堂前の廊下はあまり混雑せずに済んだ。出来たての学類紹介パンフレット、入試に関する資料、地図等が配布された。説明会の概要は以下の通りである。10時開始で、午前中は以下の説明・ミニ講義が行われた。

- ・ 学類長挨拶(浦山 修 学類長)
- ・ 教育課程について(有波忠雄 カリキュラム委員長)
- ・ 進路・就職について(長田道夫 就職・進学委員長)
- ・ 入学試験について(二宮治彦 入試委員長)
- ・ 質疑応答
- ・ ミニ講義「遺伝子の情報 - 何が書かれているのか?どのよう発現するのか?」
(久武 幸司)
- ・ 在学生からの説明
(医療科学主専攻2年 原 優太)
(医療科学主専攻3年 松崎 俊憲)
- ・ 質疑応答

浦山先生の挨拶ではこの説明会が参加者のものであること、主体的に行動して欲しいとの話があった。スケジュールがかなりtightにfixしたものであったので、あまり自主的に行動する余裕はなかったようである。来年度の課題かもしれない。二宮先生は配布した資料に添って、来年度の入試について細かな説明をしてくださった。内容は十分であったが、もう少しゆっくり説明ができるように時間をとりたいと感じた。在校生の説明は予想以上に詳細なものであった。最後に質疑応答の時間があったが、質問はまったくなかった。配布された膨大な資料、矢継ぎ早の説明、しかも大勢の前では質問はしにくかったのであろう。

昼食時には大学紹介のDVDの上映があった。学類再編に伴い、新たに作られたようである。かなり凝ったものであった。午後はまずD棟(総合研究棟)見学希望者が出発した。50人位であったと思う。D棟見学は以下のように行われた。

研究室紹介(会議室において)

薬理学研究室
分子発生生物学研究室
遺伝医学研究室
免疫学研究室
解剖学神経生物学研究室
分子神経生物研究室
棟内見学

D棟は学生の講義・実習では使われることはないが、卒業研究、そして大学院での研究がなされる可能性のある棟で、希望者には是非紹介したかった。約1時間半かかると計画していたが、実際はもう少しかかってしまった。

その他の学生はやや遅れて集合し、グループに分かれて医療科学類教員および在学生の引率により学群棟(図書館、書籍部、カフェテリアと食堂)、学類棟(教室、分析実習室、病

原実習室、形態実習室、サテライト室)の見学を行なった。D棟見学者は戻ってから同じルートの見学を行なった。

また午後は臨床講堂前のロビーにテーブルと椅子を用意し、受験・学生生活に関する個別相談会を行なった。浦山・二宮両先生と学生2名に待機してもらい、見学終了時から何名かの質問者が立ち寄った。かなりオープンなスペースだったので、参加者が限られたかもしれないが、別室に用意するよりはむしろ参加しやすかったのではないかと思った。

そんなこんなで3時半頃、ほぼスケジュールは終了した。バスで来た高校生がバスの時間(5時)まで時間があるとロビーに残っていた。以上、来年度以降の参考のために大学説明会の様子を解説した。大学説明会、オープンキャンパスは多くの大学で開催されているが、参加した学生のうちのできるだけ多くが実際に受験してくれることを希望する。

